

事業事前評価表

国際協力機構アフリカ部アフリカ第四課

1. 基本情報

(1) 国名：ブルキナファソ

(2) プロジェクトサイト／対象地域名：ワガドゥグ市

(3) 案件名：灌漑施設の持続可能な利用のためのワガドゥグ機材整備場整備計画

英語名：The Project for the Development of the Ouagadougou Maintenance Center for Sustainable Use of Irrigation Facilities

仏語名：Le Projet de Développement du Garage de Maintenance de Ouagadougou pour l'Utilisation Durable des Installations d'Irrigation

(4) G/A 締結日：2026 年 2 月 3 日

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における農業セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

ブルキナファソの農業セクターは GDP の約 20%を占め、就労人口の 70%以上が従事する基幹産業である（世銀、2022）。同国の貧困人口は 30%に達し、その多くは農村地域に居住して農業を主な収入源としているため、食料安全保障や貧困削減の観点からも重要なセクターである（世銀、2018）。近年治安悪化に伴い、国内避難民が約 200 万人を超え（UNHCR、2023）、生活困窮者が急増しており、水や食料の奪い合いや職のない若者等の武装組織への傾倒が懸念され、平和と安定には、食料の安定生産及び若年層の雇用創出や社会統合が喫緊の課題である。

同国では小規模な灌漑農業及び不安定な降雨に依存した天水農業が中心であり、深刻化する水不足や気候変動に対して非常に脆弱である。同国政府は食糧危機や気候変動に対するレジリエンス強化のため、1970 年代から灌漑区を整備してきたが、灌漑設備の老朽化や損傷が著しく、灌漑能力が低下している。農業省は灌漑区の維持管理に用いる機材や、農家が保有する農機の修理を目的に、同国中心部のワガドゥグ、同じく西部のボボジュラッソの 2 ヶ所に機材整備場を有している。しかし機材の老朽化等でボボジュラッソ機材整備場しか稼働しておらず、灌漑区の維持管理に支障を来している。また、農業省における灌漑施設情報の整備が遅れ、実態に基づいた灌漑計画の策定及び計画的な改修が困難となっている。同国政府は国家開発計画「第二次国家経済社会開発計画（PNDESII）2021-2025」において基幹産業である農業振興に注力しており、灌漑及び水管理の強化を最重要視し、灌漑農業の割合を農民生産の 25%（28,004ha 相当）に高めるとしている（2024 年統計で 17.5%。なお、2022 年のクーデター後の暫定政権が掲げる「安定と発展のための開発計画（PA-SD）」では目標を 25,000ha に下方修正）。加えて、国家稲作振興計画（2021-2030）において、2030 年までに年間米生産 300 万トン（45 万トン、2020 年）、自給率 100%（44%、2020 年）、新規雇用 42 万人の達成を目指しており、JICA はアフリカ稲作振興のための共同体（CARD）イニシアティブ、農業政策アドバイザー派遣、技術協力プロジェクトを通じて、上記課題に対応すべく灌漑施設の診断及び改修・維持管理計画の策定にかかる能力

強化を進めている。

「灌漑施設の持続可能な利用のためのワガドゥグ機材整備場整備計画」(以下、「本事業」という。)は、非稼働のワガドゥグ機材整備場の改修、灌漑施設の整備・改修・維持管理用機材等の整備により、灌漑施設の持続可能な利用及び農業生産性の向上を図るものであり、同国開発計画に合致した優先度の高い事業として位置づけられる。

(2) 農業セクターに対する我が国及び JICA の協力量針等と本事業の位置付け

対ブルキナファソ国別開発協力量針(2018 年 8 月)では食料安全保障や貧困削減に資する「農業開発」を重点分野としており、また、JICA グローバルアジェンダ(課題別事業戦略)「5.農業農村開発(持続可能な食料システム)」では稲作振興を挙げており、本事業はこれに資するものである。また、本事業は、我が国が推進してきたアフリカ稲作振興のための共同体(CARD)の目標にも貢献する。さらに、我が国は、TICAD9 の柱である「経済」に関する取組として貧困・食料不安解消に向けた農業システムの強化、「平和と安定」に関する取組としてアフリカ大陸における平和のための努力を支援し、紛争、テロ及び暴力的過激主義に引き続き対処することを表明しているほか、G7 広島首脳コミュニケにて、西アフリカ及びサヘルの状況を念頭に、平和、安定及び繁栄に関するアフリカ主導の取組への支援を表明しており、本事業は、これらコミットメントを具体化するものである。また、本事業は、灌漑区の整備を通じて農業の脆弱性を改善することで SDGs ゴール 1「貧困を無くそう」及び SDGs ゴール 2「飢餓をゼロに」及び SDGs ゴール 13「気候変動に具体的対策を」に貢献すると考えられる。

(3) 他の援助機関の対応

世界銀行(WB)、国連食糧農業機関(FAO)、国際農業開発基金(IFAD)が低湿地開発、灌漑施設の建設やアクセス道路等のインフラ整備と、農民組織化やバリューチェーン強化を通じた農村住民の持続的な収入向上および食料安全保障に取り組んでいる。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、ワガドゥグ機材整備場の改修及び灌漑機材の整備を行うことにより、灌漑区の改修、維持管理及び開発の実施体制を強化し、もって同国の農業生産体制の強化に寄与するもの。

② 事業内容

ア) 施設、機材等の内容

【施設】ワガドゥグ機材整備場の改修(機材室、メカニック室、機材保管室等、総延床面積約 1,360m²)、主要幹線道路へ至る道路の舗装(約 740m)

【機材】灌漑設備・溜池改修用機材(ダンプトラック 1 台、バックホー 1 台、ブルドーザー 1 台等)、調査用機材(水深測量機器 2 台、トータルステーション 2 台等)、工作機械(旋盤 1 台、クランクシャフト研削盤 1 台、フラット研削機 1 台等)

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、施行・調達監理、機材の活用・維持方法、整備場の運営指導

③ 本事業の受益者（ターゲットグループ）

直接受益者：農業省農牧・灌漑開発総局（以下「DGADI」という）、農牧機械化・資材局（以下「DIMA」という）、農業生産総局（以下「DGPV」という）

最終受益者：ワカドゥグ機材整備場が所掌する地域の農家（人口約 130 万人）

（2）総事業費

総事業費 1,406 百万円（概算協力額（日本側）：1,405 百万円、ブルキナファソ側：1 百万円）、単年度

（3）事業実施スケジュール（協力期間）

2025 年 12 月～2028 年 10 月を予定（計 35 か月）。機材供用が開始した時（2027 年 11 月）をもって事業完成とする。

（4）事業実施体制

1）事業実施機関：農業畜産水産資源省（Ministère de l'Agriculture, des Ressources Animales et Halieutique）農牧・灌漑開発総局（Direction Générale des Aménagements Agro-pastoraux et du Développement de l'irrigation）、農牧生産総局（Direction Générale des Productions Végétales）農牧機械化・資材局（Direction des Intrants et de la Mécanisation Agricole）

2）運営・維持管理機関：

【体制面】既存部署の業務所掌に従い、DGADI が灌漑施設整備・改修・維持管理用機材（以下、「建設機械等」という）と調査用機材の活用計画の策定と運用を担い、それらを補完するワカドゥグ機材整備場の運営維持管理（各種機材の整備を含む）は DIMA が担う。上記を踏まえ、ワカドゥグ機材整備場には組織運営の実施ユニットが設置され、人員も配置される予定。

【技術面】ワカドゥグ機材整備場の実施ユニットの運営体制についても、DIMA に対しソフトコンポーネントを通じて指導する。機材整備場の運営維持管理は、DIMA がボボジュラッソ機材整備場の運営において十分な知見を有しているが、新たに配備する工作機械もあるため、改めて DIMA に対する整備点検の体制構築をソフトコンポーネントで支援する。調査機器の使用については、DGADI が一定の知見を有している他、実施中の「灌漑区再活性のための能力強化プロジェクト」でも能力強化を行っているが、新たに配備する調査機器もあるため、機材整備場に DGADI 維持管理スタッフを新規派遣するとともに、改めて DGADI に対し活用と管理をソフトコンポーネントで支援する。一方、DGADI が建設機械を管理するのは初めてなので、DGADI の操作スタッフの育成、DGADI による民間業者への貸出体制の整備についてソフトコンポーネントで重点的に対応する。

【財務面】整備場の人員配置や運営維持管理のための追加予算措置については先方負担事項として合意済み。なお、予算に関しては DIMA がワカドゥグ機材整備場で所掌することとなる民間を対象とした農機修理サービスからの収入も維持管理費に充てることが見込まれる。

（5）他事業、他援助機関等との連携・役割分担

世界銀行（WB）や国際農業開発基金（IFAD）が灌漑開発及び管理における組織能力強化やコミュニティ主導の灌漑管理強化に取り組んでおり、灌漑設備の長寿命化に向けた維持管理において連携する。

（６）環境社会配慮

１）環境社会配慮

- ① カテゴリ分類：B
- ② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2022年１月公布）上、セクター特性、事業特性および地域特性に鑑みて、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるため。
- ③ 環境許認可：本事業にかかる環境影響評価通知（NIES）は2025年内に国家環境評価局（ANEVE）により承認予定。
- ④ 汚染対策：工事中は大気質、水質、騒音・振動等について、同国国内の排出基準及び環境基準を満たすよう散水、遮水壁の活用、工事時間帯の制限等の対策がとられ、事業開始後は大気質、土壌汚染等について、高燃費自家発電機の導入、防油シート及びオイルトラップの設置等の対策がとられる予定である。
- ⑤ 自然環境面：事業対象地の一部がラムサール登録湿地に隣接しているものの、工事中は代替植樹、工事現場からの営巣の移設等を行う他、騒音、土砂の飛散について、静音・低振動機材の導入、飛散防止に向けた資材をカバーする等の対策がとられ、また供用後に大きな影響を与えないことから、自然環境への望ましくない影響は十分緩和される見通し。
- ⑥ 社会環境面：本事業の用地は公有地であり、用地取得及び非自発的住民移転は発生しない。
- ⑦ その他・モニタリング：本事業は、工事中は請負業者が大気質、水質、騒音・振動等について、供用開始後は機材整備場の管理事務局が大気質、土壌汚染等についてモニタリングする。

（７）横断的事項

本事業は、豪雨や洪水に強靱な灌漑設備の維持管理を行うことで気候変動適応策に資する可能性があり、水資源管理と農業を適応策の重要な分野と位置付ける当該国のNDCに貢献する。

（８）ジェンダー分類：【対象外】■GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

＜活動内容／分類理由＞調査にて社会・ジェンダー分析がされ、本事業で改修する機材整備場には、独立したトイレ・更衣室を整備し、女性職員・作業員に安全で適切な作業環境を提供する計画を立案しているものの、ジェンダー平等や女性のエンパワメントに資する具体的な取組や指標等の設定に至らなかったため。

（９）その他特記事項：無し

4. 事業効果

（１）定量的効果

1) アウトカム（運用・効果指標）

指標名	基準値 (2025 年実績値)	目標値(2031 年) 【事業完成 3 年後】
年間当たりの調達機材により新規整備された灌漑地区（ヘクタール）	0	600
年間当たりの調達機材により簡易修繕された灌漑地区（ヘクタール）	0	400
年間当たりの調達機材による調査踏まえた灌漑地区の開発計画立案件数（件）	0	12

（2）定性的効果

灌漑農業が普及することで乾期の農業生産が安定化する。

5. 前提条件・外部条件

1) 前提条件：無し

2) 外部条件：2022 年 1 月及び同年 9 月に発生したクーデターに起因し治安が悪化しているため、外国人の渡航禁止や現地業者の活動制限が発生しないこと。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

平成 21 年度対ガーナ無償資金協力「基礎教育機会改善計画」（事後評価：2019 年度）では、現地企業の活用にあたり、現地企業の財務能力の見極めに関し、書類提出に加え、技術審査時に対象現地企業者が実際手掛けた直近の現場確認を行うことの重要性が指摘されている。本事業は現地企業活用型ではないが、治安上の渡航制約に鑑み、受注本邦企業が現地企業を遠隔で監理することが想定されるため、同様にサイト訪問等事前調査を行い、現地業者の技術的・財務的能力を判断する。

7. 評価結果

本事業は、当国の開発課題・開発政策並びに我が国及び JICA の協力量針に合致し、本事業を通じてワガドゥグ機材整備場の改修及び灌漑地区の新規整備・簡易改修並びに維持管理機材を整備し、灌漑地区の開発・改修の実施体制の強化を図ることで、同国の農業開発に資するものであり、SDGs ゴール 1「貧困を無くそう」、SDGs ゴール 2「飢餓をゼロに」及び SDGs ゴール 13「気候変動に具体的対策を」に貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

4. のとおり。

(2) 今後の評価スケジュール

事業完成 3 年後 事後評価

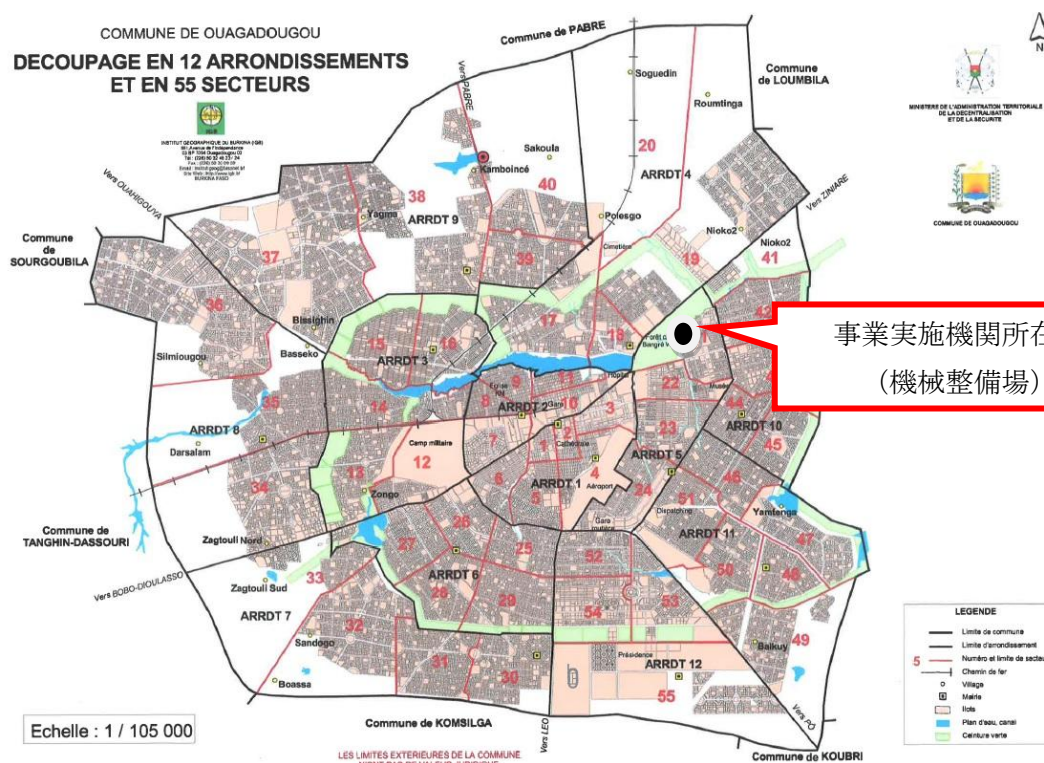
以上

別添資料 ブルキナファソ「灌漑施設の持続可能な利用のためのワガドゥグ機材
整備場整備計画」地図

灌漑施設の持続可能な利用のためのワガドゥグ機材整備場整備計画 地図



出典：国連 (<https://www.un.org/Depts/Cartographic/map/profile/burkina.pdf>)



出典：ワガドゥグ市（ブルキナファソ国土地理院の地図を基にワガドゥグ市が作成）